



いかにこの時代に生きる力を育むか

校長 齋藤 等

春到来。神宮前小学校の校門脇の桜も、進級した子供たちを祝うかのように満開となりました。

春は、別れと出会いの季節であります。三月二十四日には、二十九名の卒業生を送り出し、本日、六十名の新一年生を迎えました。教職員も河村一朗前校長先生をはじめ、裏面に記しましたとおり、人事異動がありました。私は、四月一日付で、後任の校長として着任いたしました齋藤等と申します。微力ではありますが、今後、神宮前小学校の子供たちのために尽力したいと考えております。どうぞ、よろしくお願いたします。

先日、私が初めて本校を訪れた際、原宿駅付近や表参道を歩いてみて、この町の雰囲気や行き交う人々の多さ、華やかさに圧倒されました。最先端のファッションに身を包んだ若者たち、笑顔で談笑する観光客、そして、そのいずれにも外国の方がたいへん多いことに驚きました。これまで本校が特色ある教育活動として、「国際社会を生き抜く子供たちの育成」をテーマに掲げ、様々な教育活動に取り組んできた背景

を感じました。

本校は、昨年度から渋谷区の「英語学習モデル校」に指定されており、これまでの取組をさらに充実させるカリキュラム作りに取り組んでおります。現在の国の基準(学習指導要領)では、小学校の五・六年生で、年間三十五時間の「外国語活動」(英語)を行うよう定められておりますが、本年度、本校では、その二倍の年間七十時間を計画しております。また、基準にない三・四年生で四十時間、一・二年生で三十五時間の英語活動を行います。

そのために、ALT(外国語指導助手)は、年間を通じて、ほぼ毎日勤務するように計画しております。九月からは、もう一名増えて、ほぼ毎日、二名のALTの先生が勤務する予定です。このALTの先生が勤務する予定ですので、英語の授業だけでなく、休み時間や給食の時間などにも関わることでできるようになります。また、「総合的な学習の時間」において、表参道を訪れてきた外国人観光客の方にインタビュする活動なども計画し、「英語を学ぶ」だけでなく、実際に活用し、コミュニケーション能力の素地を育くんだり、異文化の理解が深まったりすることをめざしてまいります。



現在の小学生が大人になる頃には、今以上にグローバル化が進展することでしょう。そうした社会で活躍できる能力としては、「英語が話せる」ことは目標ではなく、あくまでも一つの手段です。日本語であるのと、外国語であるのと、まずは、しっかりと自分で考え、表現できることが重要です。

文部科学省が二月に公表した次期学習指導要領(小学校は、平成三十二年度から全面实施予定)の案では、これからの時代に生きる子供たちに、学校教育で育成すべき資質・能力として、
①生きて働く「知識・技能」の習得、
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱を示しました。今後、保護者会等の機会にもお伝えしてまいります。本校では、こうした方向性を見据えて、今から取り組めることには、少しずつでも進めていきたいと考えております。子供の教育は、学校・保護者・地域がそれぞれの役割を果たし、連携・協働していくことで、より一層効果的になると考えます。本年度もご理解・ご協力をよろしくお願いたします。

4月の生活指導

#Homeschools

仲よく生活しよう

新しくなった水車小屋が見守る中、いよいよ平成二十九年年度がスタートしました。今年度も二クラス的一年生を迎え、全校児童三百九名となりました。子供たちは友達の数が増え、学校生活がより楽しくなると、わくわくしていることでしょう。

さて、人数が増えても限られた場所の中、みんなが楽しく気持ちよく安全に生活するためにはどんなことが必要でしょうか。

そこで作られたのが「水車の子」「遊びの約束」「神宮前スタンダード」という生活のきまりです。この約束は、放課後クラブでも、共通理解をしています。

きまりは一人一人がその意義を理解して守るということがとても重要です。時には自分の思い通りにならないこともあるかもしれませんが、そんな時に、ちょっと立ち止まって周りのことや友達のことを考えて行動できる、そんな子供たちを育てていきたいと思えます。

今年度もどうぞよろしくお願いたします。(生活指導部)